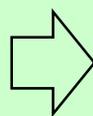


安定した白ねぎ大規模生産とにんじん産地の維持 ～足立大輔～

経営体の概要

就農・入植時：平成26年度
基幹作物：白ねぎ
経営面積：2.0ha（うち干拓地0.6ha）



入植後：令和元年度
基幹作物：白ねぎ、にんじん
経営面積：4.5ha

取組の経緯と経営転換のポイント等

足立氏は、漁業に従事していたが、収入面の不安や漁船等の燃料代の高騰等から、安定した収入源確保を求めて、平成26年に就農した。同時に中海地区（平成3年度に完了した国営干拓事業「中海地区」彦名工区（米子市））へ入植した。その後、経営安定のため、規模拡大に取り組んできたが、農地の分散により経営規模拡大に支障をきたしていたことから、農地中間管理機構を通して、平成29年に中海地区に農地を集約し、経営規模を拡大している。

中海地区は、かん水施設・農道などの生産施設が整備されているとともに、集約された農地で大規模経営が可能になるなど、干拓事業ならではのメリットを有効に活用し、就農・入植時の2haから、現在の約5haまで、経営規模の拡大を進めて、白ねぎの大規模生産に取り組んでいる。また、年間を通して農業用水が安定して活用できることから、白ねぎの周年栽培に取り組むとともに、にんじんの産地維持にも取り組み、収益力向上を実現するなど、事業効果を大いに享受している。

営農改善のポイント

①作物の変化

白ねぎは、本地域が産地として確立しており、価格も安定していることから入植当初から導入しているが、干拓地は年間を通して定植用水が確保できることから、夏ねぎ、秋冬ねぎ、春ねぎという作型の組合せによって周年栽培を実現している。にんじんの生産者の高齢化により、生産数量が減少したことから、令和元年よりにんじん産地の維持にも取り組んでおり、白ねぎと輪作体系を構築することで連作障害対策にも繋がっている。



白ねぎの収穫



スプリンクラー

②省力化

干拓地は、農地が集約されており、大規模栽培に適しているため、農業用機械の導入により、作業効率を上げ、省力化を図っている。追肥を要しない緩効性肥料を導入することで更なる省力化も図っている。また、スプリンクラーを利用することで大面積に効率よくかん水している。



出荷用の箱

事業概要

事業種：国営干拓事業「中海地区」
関係市町：鳥取県米子市、境港市、島根県松江市、安来市
受益面積：485ha
事業期間：昭和38～平成25年度
事業目的：干拓
主要工事：貯水池 2箇所、用水路 53.8km、排水路 2.6km、道路 19.1km

位置図（鳥取県・島根県）



<局間い合わせ先>

中国四国農政局
農村振興部農地整備課
電話：086-224-4511
(内線：2562)

(令和元年度調査時点)